

授業科目 聴覚障害 II 演習

【担当教員名】 佐藤 克郎、桑原 桂		対象学年	3	対象学科	言語
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	○	
【概要・一般目標：G10】 聴覚障害を的確に評価するための各種聴力（覚）検査法を実施に即して習得し、学習する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1 各種聴力検査法を理解する。 2 実際に検査を行うことが出来る。 3 検査結果を評価することが出来る。 4 臨床例から疾患を理解する。 5 検査記録を整理し、理解して、学んだ内容を説明できるようにまとめる事が出来る。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1, 2 3, 4 5, 6 7 8 9 10 11, 12 13, 14 15	聴力検査の実際とマスキングの実際 純音聴力検査（伝音難聴）とマスキング 語音聴力検査（伝音難聴） 自記オージオメータ 閾値上検査：ABLB テスト、SISI テスト インピーダンス・オージオメトリー：ティンパノメトリー、音響性耳小骨反射検査 聴覚障害の臨床 伝音難聴をきたす疾患 感音難聴をきたす疾患 まとめ				講義（A・B合同） 実技、演習（A・Bグループ別） 実技、演習（A・Bグループ別） 演習 演習 演習 演習 演習 演習
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書	聴覚検査の実際 成人聴覚障害	日本聴覚医学会編 中野雄一	南山堂 考古堂	2009・3,400円＋税 2010・2,500円	
その他の資料					
【評価方法】 出席・演習状況と定期試験から評価する。			【履修上の留意点】		